

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3393700061		
法人名	有限会社 美作名倉堂		
事業所名	グループホーム 武蔵の里		
所在地	岡山県美作市下庄町905-1		
自己評価作成日	平成 26 年 3 月 1 日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaisokensaku.jp/33/index.php?action_kouhou_detail_2013_022_kihon=true&JigvosyoCd=3393700061-00&PrefCd=33&VersionCd=
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス		
所在地	岡山市北区岩井二丁目2-18		
訪問調査日	平成 26 年 3 月 24 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

法人本体の美作市栄町では、柔道整復師による接骨院を母体とし、身体運動器系の機能訓練を専門とした通所介護サービスをはじめ、訪問介護、地域密着型認知症対応型通所介護、小規模多機能型居宅介護等在宅介護を支える介護サービス事業を展開しています。平成24年3月に開設した当ホームも、2度の年を越し3度目の春を迎えました。今年度までに作り上げてきた地域の皆様との絆、利用者様やそのご家族との信頼関係を深めつつ、さらに利用者様おひとりおひとりの要望にもっともお応えできるよう、利用者様に常に寄り添い、地域の皆様に愛されるグループホームを目指します。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者の個性や明るさ、パワーが感じられる事業所である。自分が世話をしている菜園や優しい職員さんの自慢を語ってくれ、帰際には「またおいで」と抱きついてくれた方を始め、それぞれが自分の意思を自然に表現し、マイペースに過ごされている。これは職員が利用者を尊重した支援をしている証しだと思われる。開所2年目ではあるが、地域との交流は多岐に渡っている。今年度は地域住民からの申し出により事業所の駐車場にて、合同夏祭り『下庄祭り』が盛大に行われた。地域住民も大勢訪れ、利用者も屋台やスイカ割りなど楽しい時間を過ごす事ができた。また、夏休みのラジオ体操も昨年と同様に継続している。子ども達が来ると、早朝にもかかわらず利用者は喜んで体を動かしてくれるとのこと。子ども達の中には利用者の顔を覚えてくれており、小学校の運動会見学に行った際、声をかけてくれる子もいた。こうした顔の見えるつながりは地域密着型サービスとして本当に素敵だと感じる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員全員で考えた理念を事務所に掲げ、毎日の業務の中で実践している。	事業所を開設をするときに職員全員で考えた理念である。月1回のミーティング時にはグループホームが地域密着型サービスであり、地域に貢献していく役割を持っていることを伝え、意識づけを図っている。職員もそれに応え、地域との交流やボランティアの受け入れなど積極的に行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域住民として地域行事への参加、環境整備等ボランティア活動へも参加している。	町内会に入会し、地域の清掃活動や草抜きなど参加している。今年は地域の下庄夏祭りを合同で開催した。地域の方と協力し、そうめん流しやスイカ割り、屋台など行い、利用者も楽しむことができた。夏休みには小学生のラジオ体操が恒例となり、子ども達が利用者の顔を覚えてくれる位、親しい関係ができています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	夏休みには小学生のラジオ体操の場として、駐車場を提供。地域の方やホーム入居所も一緒にラジオ体操に参加した。このようなふれあいを通して、認知症の人への理解が地域に広がるよう、今後も努力していく。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議において地域の方から地域行事の予定をお聞きしたり、いろいろな情報を得ている。今年度はホームの写真新聞も発行し、より具体的な報告ができたことにより、アドバイスや意見もいただいている	2ヶ月に1回、定期的開催している。参加者は、市の高齢者福祉課・民生委員・協力歯科医・家族などとなっている。議事録は玄関に置き、いつでも見る事ができるようにしている。「かかしコンテスト」に出品したり、写真新聞「おひさま便り」に職員の紹介欄を設けたりするなど、参加者からの意見を活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市担当者の方には、会議やホームの行事をご案内させて頂き、出席やご協力をいただいている。 会議では市の状況やホームの状況など密に情報交換できている。	運営推進会議を中心に市担当者と連携を図っている。地域包括支援センターとも日頃から空き情報を伝える等、連絡をとっている。グループホームを退所する利用者がいた時に次の入居先を一緒に検討し、スムーズに移行した事例もある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	帰宅願望が強く表れたり、不穏状態の方に対し職員はその都度その方に合わせた声かけを行い、寄り添い、傾聴することで対応している。	身体拘束についてマニュアルを作成しており、年間計画の中で身体拘束についての研修を実施している。また、外部研修も機会があれば、参加している。事務所を通過してユニット間を歩き来できるため、日頃から何気なく利用者が事務所に入り、職員と話をしたり、他の利用者から離れて一人になったりし、自由な時間を過ごしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修の機会があれば参加させている。事業所内年間研修予定に取り入れ、年1回は高齢者虐待防止についての研修を行い、職員の意識が薄れないようにしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	計画作成担当は市で毎月行われている「日常生活自立支援事業連絡会」に参加している。スタッフにも権利擁護に関する研修があれば、積極的に参加させている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時の重要事項の説明の他、契約後も随時質問に対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者ごとに担当スタッフを決め、担当者が利用者・ご家族とのより深い信頼関係が築けるようにし、利用者・ご家族からの意見・要望を職員に伝えて頂けやすい環境を作っている。	家族の面会時に職員から利用者の日常の様子を説明し、意見や要望を聞いている。遠方の家族には電話で連絡をしている。担当スタッフが利用者の身の回りを管理し、関係構築を図っている。家族同士の交流会を開催したこともあるが、参加者が少なかった。	家族と利用者、家族と事業所との交流機会を増やしていくために、あえて家族の役割を作ってはどうか。夏祭りの準備、季節の外出、衣替えなど検討して頂き、家族がお手伝いしやすい状況を設定して頂くことを期待します。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の見解や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度スタッフミーティングを開き、職員の意見や提案を聞き、管理者は月に一度開催される管理者会議にてその意見等を申入れている。	月1回スタッフミーティングにて職員の意見交換の場を設けている。ほとんどが利用者の支援方法についての意見が多い。記録書類を減らし、利用者向き合いという意見があり、書式の検討も行っている。個人面談や職員の悩み等はその都度管理者が聞き、管理者会議等で上に伝えている。	記録用紙や介護計画書の書式の改善を検討されているとのことでした。作業の簡素化に加えて、必要な部分はきちんと記録し、モニタリングや次の課題分析に役立つ書式作成を期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人に顧問の社会保険労務士と税理士をおき、より良い就業環境になるよう常に新しい情報を提供してもらい、職員が安心して働けるよう努めている。また、年に一度優秀な職員を表彰している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内外の研修の機会を作り、参加させている。費用を会社で負担する場合もある。また、勉強会を開いたり、シフト調整など、資格取得の支援も積極的にしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	美作地域で行っているグループホーム勉強会に参加させ、同業者との交流を図りながら、他事業所の良い点などを取り入れ、サービスの向上を図っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者に関する情報を収集した上で、本人の困っている事、不安に思っている事を少しずつ聞きだし、安心して話して頂けるよう関係作りに努め、真の要望を汲み取れるよう努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の困っている事、不安な事をじっくり傾聴し、ホームへ入所した場合の家族の負担の軽減など具体的に説明したり、入所後の関わりなども、家族の要望を聞きながら話し合い、関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス開始前に、本人・家族の状況、要望をお聞きし、一番必要な支援は何か、多方面から考えている。担当ケアマネ、ケアワーカー等とも適切な支援を充分話し合っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者は皆さん人生の先輩であり、色々の経験を経て今現在がある。利用者の経験談から、勇気を頂いたりアドバイスを受けていたりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は常に利用者を第一に考え、ご家族と情報を共有し利用者との絆を大切にすると共に、職員との絆も深め、共に利用者を支えていけるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者のこれまでの人生、生活歴を把握し、馴染みの友人・知人の面会をお願いしてお話をしてもらったり、馴染みの場所に出向いたりしている。入居前からの馴染みの床屋や美容院にお連れしている。	職員付き添いのもと、馴染みの美容室に行き、美容師さんと利用者が髪質や昔の話をし、穏やかな時間を過ごしている。男性利用者の場合、家族が散髪に来ることもある。知人や友人の面会や家族の協力により、外出や外泊をする方もいる。時には利用者の部屋に泊まる家族もおられる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は利用者同士のコミュニケーションがうまくいくように配席やレクなど、その都度工夫しながら支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院となり、利用が終了した方のご家族からの相談にも応じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話などから、ご本人の思いを汲み取る努力をしている。困難な場合は、職員で話し合い、その方にとって最善の関わりが出来るよう努めている。	日頃から利用者の話をしっかりと聞き、思いや意向を把握するよう努めている。言葉での表現が難しい利用者は、家族とコミュニケーションを図り、生活歴や趣味など聞き、本人の思いを推しはかり、対応している。「家に帰りたい」という強い思いを持った利用者に対して家族と相談し、一時帰宅を試みたこともある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	プライバシー保護に注意を払いながら、生活歴の情報を収集し、これまでの暮らしに近い生活が送れるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活のリズムや心身状態を把握し、本人の思いに沿った暮らしの支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画の作成にあたり、本人・家族の意見や要望をふまえ、職員の気付きも含め話し合い、本人の思いが実現できるような介護計画になるよう努力している。	計画作成担当者が中心となり作成している。スタッフミーティングで職員間の意見交換を行い、意見を反映している。家族の要望は利用開始時にしっかりと聞き、また入居後も面会時には話を聞くようにしている。今後、家族の思いをもっと強く反映していきたいと考えている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一人ひとりの日々の様子やサービス内容、職員の気付いた事などを記録し、職員間で情報を共有しながらケアを実践している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者を取り巻く環境や、心身状況が変われば、その都度情報を職員全員で共有し、常にその方に合ったケアを提供できるよう柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアの方々にご協力頂いて、レクを楽しんだり、地域の伝統行事に参加させて頂いている。また、地区の申入れでホームの駐車場を提供しての夏祭りでは、夏祭りが何年かぶりに開催できたと地域の皆さんにも喜んで頂けた。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者のかかりつけ医と事業所は連絡を取り合い、適切な医療が早期に受けられるよう支援している。家族が対応困難な場合は、本人・家族が希望する医療機関を職員が付き添って受診している。	入居時に本人や家族の希望を優先し、かかりつけ医を決めている。歯科も今まで通っていたところに通院している。受診は家族にお願いしているが、場合によっては職員が同行、支援することもある。協力医療機関からの月1回の往診と必要時の訪問看護にて健康管理を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は常に看護職員に報告・相談をしながらケアを行っている。看護職員は、ホーム提携医療機関の訪問看護師や医師とも密に連絡を取り合い、利用者の健康管理に留意している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した場合は、速やかに必要な情報を提供し、医療機関担当者と治療計画などの情報交換をしている。入院中も着替えを持って行ったり、利用者様と面会し様子を伺い、退院後の準備も進めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ホーム提携医療機関は、24時間体制で急変時にも対応して頂けることになっている。重度化した場合や、終末期のあり方、ケアの方針は本人・家族の意思を最優先し、医療機関と連携を取りながらその都度よく話し合っている。	終末期のケアについて、利用開始時に書類(急変時における医療に関する意見確認書)を使って説明をしている。家族の希望があれば、急変時には救急車で病院へ搬送することを前提に事業所でできる所まで支援を行っている。本人が亡くなった後に家族がふと電話をくれたり、事業所に訪れたりすることもある。生前の思い出など語り合い、家族が立ち直るまで寄り添っていきたいと考えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変、事故発生時のマニュアルに沿って、実践できている。今後も定期的に訓練や研修を行う予定にしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の自衛消防訓練を実施している。今年度は消防署予防課の方のアドバイスをいただきながらの夜間火災想定避難訓練を行った。	年2回避難訓練を昼夜を想定し、消防署の立ち合いのもと実施している。消火器の取り扱いも指導がある。緊急時に地域の方に手伝ってもらう時に玄関へ利用者の人数や名前、移動手段など掲示し、分かりやすいように工夫している。消防団の人にも事業所を見学に来てもらったこともある。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者は、これまで色々な苦労や経験をされ頑張って来られた人生の大先輩であり、一人ひとり違った人生があり、誇りもある。それらを尊重しつつプライバシーも侵害しない言葉かけ、対応を心掛けている。	1人ひとりを尊重し、できるだけ近くであなたの言葉を聞いているよという姿勢で言葉かけをしている。日常の中で馴れ合いになってしまわないように注意している。接遇マナーの研修は特に設けていないが、ミーティングにて指導や話し合いをしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者との会話を大切にし、その中で話し方や表情等から本人の思いや希望を汲み取り、自己決定を促す言葉かけ、対応を心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間や就寝時間等利用者一人ひとりの希望やその日の体調に合わせている。一日の過ごし方も利用者や相談しながらそれぞれの希望に沿うように支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替えの衣服をご用意する際には、本人に選んでもらったり、希望をお聞きして選んでいる。理美容院にお連れしたり、出張美容サービスを利用して整容し、ご家族にも喜ばれている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の前には嚥下体操をして、食事がより楽しみになるよう支援している。できる方には積極的に準備や片付けも手伝ってもらっている。日々の会話の中で好きな物等を把握し、献立に取り入れている。	加工品や調理済み食品を活用し、できるだけ利用者と関わる時間を増やせるよう心がけている。栄養士が献立を立て、仕入れも行っている。菜園で採れた野菜を使って、一品増やすこともある。机拭きや後片付けなどできるところは利用者にも手伝ってもらっている。食事前の嚥下体操も恒例となっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスを考え、栄養士の資格を持つ職員が献立を作り、食べる量や形態、また味付けも利用者一人ひとりの病状や体調に合わせている。摂取量、排泄量を記録し、体調を管理している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声掛けをし、自身で行うのが困難な方には職員が介助を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿意・便意の薄い方に関しては、その方のリズムを把握し、リズムに合わせたトイレ誘導を行っている。	1人ひとりの排泄パターンを把握し、様子や時間を見ながら声かけし、トイレ誘導をしている。入院時にオシメを使用していた利用者が、職員の適切な支援により布パンツ+パットの状態にまで改善された例もある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘がちな利用者については、水分摂取量や運動など工夫している。食事にも繊維の多い食材を使用するなど、自然排便につながるよう取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日の入浴を希望される方には毎日入浴して頂いたり、時間帯も本人の希望やタイミングに合わせて支援している。入浴を嫌がられる方には、いろいろな話題で声かけをし、職員との会話を楽しみながら入浴できるように促し、清潔保持に努めている。	基本的に1日おきに入浴を実施している。皮膚疾患など医師の指示や本人の希望があれば毎日の入浴にも対応している。1番風呂、同性介助などにもできる限り対応している。ゆず湯や菖蒲湯など季節で楽しんでもらっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活リズムを把握し、個々の生活習慣を尊重しながら対応している。眠れないときは、利用者の不安な気持ちを傾聴し、寄り添うケアを心掛けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は利用者一人ひとりの薬を把握し、追加や変更の際も必ず情報共有して、飲み忘れや間違いのないようにしている。利用者の症状等変化があれば、すぐに看護スタッフに伝え、対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の生活歴や普段の会話の中から、役割と感じて頂けることや、興味のあることを汲み取り、本人がやりがいや楽しみを感じて頂けるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	「生家(京都)に行きたい」「少しの時間でいいから家に帰りたい」「買い物に行きたい」「お寿司を食べに行きたい」等、ご家族にご協力をお願いしたりしながら一人ひとりの要望が叶えられるよう支援している。	紅葉狩りやお花見など季節毎の外出行事に取り組んでいる。「生家(京都)に行きたい」という訴えが何度もあり、家族の協力により車で出かけた利用者もおられる。それまでは日に何度も訴えが続いていたが、実際に行った後は訴えがなくなった。	季節の外出行事など全体での外出は出来ています。今後は1人ひとりの希望やニーズを把握し、個別外出にも力を入れて頂けると嬉しいです。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の所持は、ご家族・本人の希望に合わせてして頂いている。職員と買い物に行った際には、おやつ等をご自分で選んで購入して頂くこともある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族へのお電話は、ご家族の承諾のもと、希望に応じて支援している。携帯電話を持っておられる方もいる。年末には年賀状の作成をして頂いた。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾ったり、カレンダーを職員と利用者で作成し、居間に飾っている。温度管理は常に行い、快適に過ごせるようにしている。	天井が高く、開放的で木のぬくもりを感じる事ができる造りである。利用者の手作り作品や季節の生花を飾り、季節感をだしている。テレビ前のソファやテーブルなど利用者が好きな場所できつろいでいる。畳コーナーは少し高さがある為、利用者が上がれず、レクリエーションや作業クラフトなどの置き場所となっている。	せっかくの畳コーナーが活用されておらず、残念な気がします。有効活用方法を検討して頂くことを期待しています。また、玄関脇に季節の花を植える等、利用者の役割が増え、生活に楽しみが増える取り組みをお願いします。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者の意思で自由に施設内を利用して頂いている。共用スペースには、食卓の他、ソファやこたつも用意し、気の合う利用者同士できつろげるよう支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には布団や家具など、使い慣れた物を持って来て頂いている。ご家族の写真など飾って頂いたり、自分の部屋として居心地のよいものとなるよう支援している。	クローゼットや床頭台、ベッド、洗面所が備え付けで用意されている。トイレ付きの居室もあり、家族が泊まることも出来る広さになっている。本や写真、ぬいぐるみ等、馴染みの物を持ち込んでいる。冷蔵庫や洋風アンティーク家具を持ってきている利用者もおられる。安心できる空間づくりに配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部は段差をなくしたり手すりをつけたりと、利用者が移動しやすい構造にしている。「出来る事」の支援として、トイレ等に行かれる時は歩行器なども使用してもらっている。		